

ページ

- 新・宮城の将来ビジョンシリーズ
- 2 PROGRESS ~ともに創ろう、躍進する宮城の未来~  
一般社団法人 YOMOYAMA COMPANY (丸森町)
- 4 新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ

- 特集1
- 6 第40回全国豊かな海づくり大会  
~食材王国みやぎ大会~
- 特集2
- 10 ステップアップ! みやぎの3R
- 県政ニュース
- 12 みやぎ型管理運営方式
- 県政ニュース
- 14 バリアフリーみやぎを目指して
- 県政ニュース
- 15 第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画
- 16 7つの地域から虹メール

- 18 お出かけガイド
- 20 みやぎのふるさと通信(七ヶ浜町・角田市)
- 21 県立施設インフォメーション
- 22 県からのお知らせ

### みやぎの人口(令和3年6月末現在)

住民基本台帳人口	2,274,493人	世帯数	1,024,216世帯
男	1,109,159人	※うち、外国人住民基本台帳人口は21,664人です。	
女	1,165,334人		

今号の表紙

### 第40回全国豊かな海づくり大会 大会記念リレー放流

10月2日・3日に行われる全国豊かな海づくり大会に向け、県は稚魚などの放流事業を行っています。第23回となる表紙のリレー放流では、南三陸町でホシガレイの稚魚を放流しました。これまでご参加いただいた元気いっぱい小学生のように大きく育ち、宮城に戻ってきてくれることを願っています。



仙台・宮城観光PR  
キャラクター  
むすび丸



昨年オープンの地域交流拠点「まどい」は徐々に地域に浸透し、今ではたまり場の存在に

**「地域との関わり合いは？」**  
**老若男女が「円居」して「惑」ご憩いの場**

昨年7月に、中心商店街の空き店舗をリノベーションして地域交流拠点「まどい」をオープンしました。お昼ごきは気軽に立ち寄れるカフェ、昼下がりには児童生徒などが多目的に使える放課後フリースペース、夜はお酒も楽しめる社交場のソーシャルスナックと3つの顔

つながりを持つてもらうことが大切です。そこで、地域の高校生を対象としたゼミやワークショップも行っていきます。一昨年の台風被害からの復興のシンボルとして桜を役場に植樹したのも、地域で何かをしたいと計画した高校生の発案でした。

また、地域の課題解決に向けてアクションを起こそうとする社会人を対象に、必要な実践スキルを学ぶ講座「四方山大学」も開講しています。

**「SDGsで意識していることは？」**

丸森町は、東日本大震災や一昨年の台風で大きな実害や風評被害を受けました。震災後は元々多くいた移住者が離れ、台風災害後には、新型コロナウイルスの影響で、多くの支援者が活動から撤退しました。すると途端に地域から活気が失われてしまいました。そのたびに、地域の中で主体的に活動している住民は少ないことが目に見えて分かりました。

地域活性化施策では、移住定住がよく叫ばれますが、外の力に頼るばかりで地域の中の芽を育むことを諦めてしまつては、持続可能

な地域づくりは望めません。地域が主体性を持つて課題解決に取り組むことが、豊かで明るい住み続けられるまちづくりにつながります。

人材育成を通して、地域を担う一人一人の小さなリーダーシップを育み、少しでも多くの種をまくことで、今後、地域で新たな種が育ち続けていくような連鎖をつくりあげていきたいと思っています。



一般社団法人YOMOYAMA COMPANY  
代表理事 八巻 眞由さん(右)

左は夫の佐藤和幸さん。  
子育てに奮闘しながら、夫婦で活動に参加している。



YOMOYAMA COMPANYは現在7人で活動している。後ろの建物は地域交流拠点「まどい」

**「活動を始めた経緯は？」**

移住者を迎え入れてくれた丸森  
私は幼い頃に丸森町に引っ越してきた1ターン2世です。昔から移住者が多いこの町は、(引っ越してきた)私たちが家族を温かく迎え入れてくれました。そんな丸森町に愛着を感じ、12歳からジュニアリーダーに参加するなど、地域づくりに関わっていました。

**若者と地域の間には大きな隔たり**

高校卒業後は丸森町教育委員会で社会教育指導員として活動し、若者を集めて青年団を立ち上げました。活動を行う中で、若者と地域の間にある大きな溝を感じるが増えました。「地域のことはどうだっていい」「楽しいことだけしたい」「都会に出たい」。そのような声を聞くことも多く、どこか地域に対してネガティブな感情があり、自分の暮らしとは切り離されているのだと感じました。

新ビジョンでは、「政策を推進する4本の柱」と「復興の柱」を掲げています。今回は3本目の柱「地域づくり」から、丸森町を拠点に、地域活動の活性化や持続可能なまちづくりを担う人材育成などに取り組む一般社団法人YOMOYAMA COMPANYの八巻眞由代表理事にお話を伺いました。

この塾は、年代を問わず、「自分」の興味・関心を「地域」の魅力や課題とつなぎ合わせ、何をしたいか将来像を計画する「マイプラン」をつくり、そのアクションをサポートするものです。地域の方との対話や、実際に地域を見て回ることで、漫然とした地域への思いを形にしていきます。この塾を経て県南地域ではたくさんの活動が生まれています。

**山を登るようにステップアップ**

若者は進学や就職で地域を離れてしまうことが多いので、学生のうちから地域社会と

当時から私は活動の根底に地域への愛着があつて、地域の豊かさが自身の生活に直結すると考えていました。しかし、自分一人が頑張っても持続的な地域づくりにはつながりません。この思いが人材育成を始めるきっかけとなりました。

**「地域を担う人づくりは？」**

**「自分と「地域」をつなぐマイプラン**

平成26年に県南地域で行われていた地域づくりを担う人材育成事業「伊達ルネッサンス塾」に一期生として参加し、翌年には運営に携わるようになりました。その後この事業を引き継ぐ形で、平成29年に当団体を設立しました(平成31年に法人化)。



「高校生マイプロジェクト」「伊達ルネッサンス塾」「四方山大学」と、段階ごとに学びの場を展開している



県南城を見渡せる四方山は団体の名前の由来

第3回

## 地域の主体性を育む種をまく

一般社団法人 YOMOYAMA COMPANY (丸森町)



令和3年度から今後10年間の県政運営の基本指針となる「新・宮城の将来ビジョン」(以下「新ビジョン」)がスタートしました。

本シリーズでは、新ビジョンの理念である「富県躍進」を目指し、政策を推進するための重要な視点である「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」「SDGsの推進」に焦点を当て、県内の企業・団体などを紹介します。